

---

# 甘藍

吉野華

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

甘藍

### 【Zコード】

Z5043E

### 【作者名】

吉野華

### 【あらすじ】

アレックス少年はどうやら虫が好きらしい。「伯爵の恋人」の番外編。時系列としては1章以前。

ある新緑の午後、四階テラスでカイトが手すりに寄りかかりながら嘆いていた。何だかよく分からないが、騎士仲間に恋人ができたとかで、動搖しているようだつた。

友だちがいることの利点には、いつもときに焦らなくていいということがあると思つた。僕は僕の腹心の騎士ということになつているこの男のことを、ほとんど鬱陶しいと思つていたが、こういつときはなおさらだつた。

「まあ、そんなにがつくり来るほどじゃないと困つよ」

僕は別にカイトのことなんて全然興味がなかつたが、落ち込んでいるようなので一応声をかけた。

するとカイトは手すりに両肘をかけたまま、顔だけ僕に向けた。

「アレックス様はまだ十四だからそういうことがおっしゃれるんですよ。でも俺はもうじき成人するんですよ」

「馬鹿馬鹿しい。女なんか、僕は要らなによ。あいつら煩いんだ。すぐ泣くしさ。

タテイだつてやうと。僕の話を楽しそうに聞いていたと思つたから、手に青虫を乗せてあげたんだ、キヤベツの葉にいたやつを。そしたら本気でひっくり返っちゃつたんだよ。だったら虫が好きみたいな顔してなきやいいのに。

拳句に今日はずっとアレックス様なんか嫌いなんて言つて泣いてるしさ。謝つても泣きやまないし。タテイは泣き虫だ。女なんて、話が通じないんだ」

「青虫……、なんてことを。アレックス様は意外と苛めつ子なんですね」

「違ひよ」

「そりですか。ああ、毛虫は駄目ですよ。腫れるから」

カイトは手すりに頬杖をついて、ちよつと苦笑いをしてくるようだつた。

「知ってるよ。でも大丈夫なのもいるよ」

「アレックス様は、虫が好きなんですね」

「うん」

「じゃあそれは嫌がらせではなく、アレックス様としては、好きなものをあげたつてわけですか。タテイと虫の楽しさを共有したかつた？」

「うん、 そなんだ」

ふとカイトは、僕ににやりとした。

「ま、と黙りて、女の手に虫を乗せるような暴挙をなさつてるのは、貴方も当分女にや縁はないでしょうけどね」

「蛙を乗せたときは、ぎやーって言つてた」

僕は言った。

するとカイトは再び不審そうに眉間に寄せた。

「アレックス様、貴方やつぱり結構その……。貴方、実はタテイがお好きなんじゃないんですか？ 彼女の気を惹きたいんですけど？ もしそうなら、あんまり無茶はやらないほうがいいですよ。北風と太陽の話、知つてますか？」

「蛙をあげたのはジェシカだよ。庭園の紫陽花のところにいたアマガエルをね」

「ああ……、そりですか。そりゃまた。」

「ところでアレックス様の極めて限定的な交友関係からすると、やっぱり閣下にも虫か何かあげたりしたんですか？」

「カイトに黄金虫をあげたとき、別に反応なかつたから、男はつまんないと思つたんだ」

「ん、とするとやつぱり貴方、ちょっとは相手のリアクションを期待してるんですか？」

「でも一応兄さんの執務机に置いてあげたんだ」

「何ですか？」

「ダンゴ虫」

「閣下はどうしました？」

「踏み潰した。それから怒られた」

「ああ、やつぱりね」

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n5043e/>

---

甘藍

2011年2月1日03時36分発行